

単元デザイン FIRST STEP —小学校国語科—

1 単元デザインは何のため？

- 学習指導要領では、資質・能力を育成するため、単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で「主体的・対話的で深い学び」を実現することが大切だと示されています。
- 「指導と評価の一体化」の観点から、単元の指導と評価の計画を作成することが求められています。
- 教師が児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、意図的・計画的に授業づくりを行うことができます。
- 児童が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができます。



2 単元デザインの手順 ※本資料では、「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」を「学習指導要領解説」と表記しています。

Step 1 単元で取り上げる指導事項を確認します。

Step 2 単元の目標と言語活動を設定します。

Step 3 単元の評価規準を設定します。

Step 4 単元の指導と評価の計画を作成します。

(例)「C読むこと」領域の学習過程 第5学年及び第6学年(説明的文章)は以下のようになっています。

| 構造と内容の把握 | 精査・解釈 | 考えの形成 | 共有 |
|--|---|--|---|
| ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 <small>(学習指導要領解説p.146~)</small> | ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 <small>(学習指導要領解説 p.148)</small> | オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 <small>(学習指導要領解説 p.150)</small> | カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 <small>(学習指導要領解説p.150~)</small> |

※学習過程は指導の順序性を示すものではないため、指導事項を必ずしも順番に指導する必要はありません。

Step 5 評価の実際と手立てを想定します。

上記の手順を踏まえた単元デザインの具体(例)を次に示します。



単元デザインの具体(例)

単元名 「説明文を読み、考えたことを話し合おう」
(第6学年)C読むこと

教材名
「6年 説明的な文章」

Step 1 単元で取り上げる指導事項を確認します。

① 年間指導計画等を基に、単元で取り上げる指導事項を確認しましょう。

年間指導計画には、各単元で取り上げる指導事項及び評価規準等が示されています。

該当する単元で取り上げることが計画されている【知識及び技能】と【思考力、判断力、表現力等】の指導事項を確認しましょう。

1学期の説明的な文章の指導事項は、【知識及び技能】では(2)ア【思考力、判断力、表現力等】では「C読むこと」(1)アとウだったから…。この単元で取り上げる指導事項を年間指導計画で確認してみよう!



この単元で取り上げる指導事項は【知識及び技能】では(2)イ【思考力、判断力、表現力等】では「読むこと」(1)ウとカだね。

単元で取り上げる指導事項

- 【知識及び技能】 (2)イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。
- 【思考力、判断力、表現力等】 「C読むこと」(1)ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。(精査・解釈)
カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。(共有)

② この単元で指導する指導事項について、学習指導要領解説で具体的な内容を確認しましょう。

学習指導要領解説には、各指導事項の具体的な内容が示されています。事前に確認することで、当該単元で育成を目指す資質・能力が明確化し、指導の見通しをもつことができます。

学習指導要領解説に詳しい内容が書かれているから確認してみよう!



【思考力、判断力、表現力等】の「C読むこと」(1)のウとカの指導事項が示してある148ページからしっかり読んでみよう。

国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、資質・能力の定着を図ることを基本としています。

そのため、一つの単元で全ての指導事項を取り上げるのではなく、年間を通して網羅できるように、計画的に指導することになっています。例えば、同じ説明的な文章の単元でも、1学期は、「C読むこと」(1)のアとウの指導事項について、2学期は、「C読むこと」(1)ウとカの指導事項について学習するということがあります。該当する単元では、どのような資質・能力を育成するのか、まずは指導事項をしっかり確認しましょう。



Step 2 単元の目標と言語活動を設定します。

- ① Step 1で確認した指導事項、児童の実態及び前単元までの学習状況を基に**単元の目標**を設定しましょう。
→詳しくは、[「学習評価の進め方」](#)参照

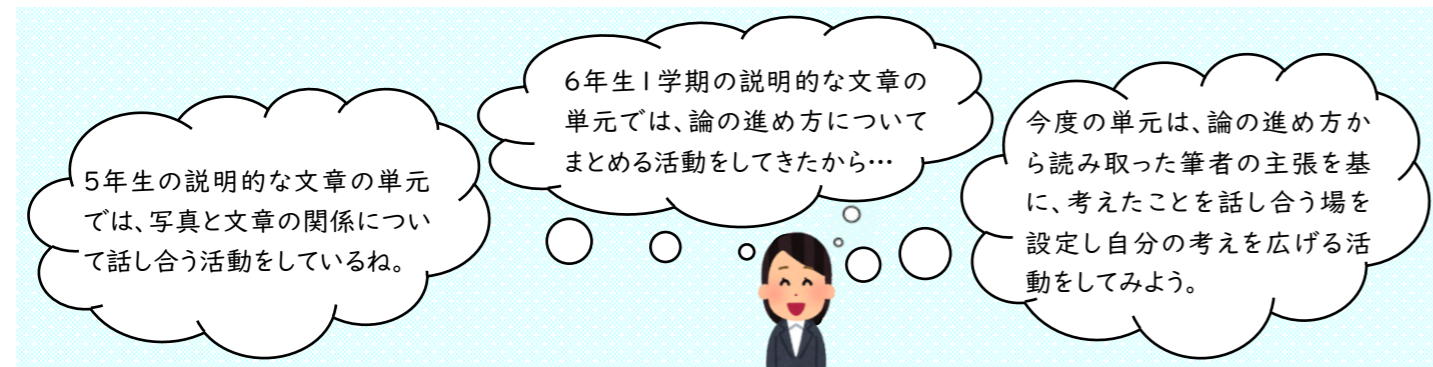
単元の目標

- (1)情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。
【知識及び技能】(2)イ
- (2)目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。
【思考力、判断力、表現力等】C(1)ウ
- (3)文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
【思考力、判断力、表現力等】C(1)カ
- (4)これまでの学習や経験を振り返り、学習の見通しをもって粘り強く、論の進め方について考え、分かったことや、考えたことを話し合おうとする。
【学びに向かう力、人間性等】

- ② 単元の目標を実現するために適した**言語活動**を、**言語活動例**を参考にして位置付けましょう。

学習指導要領解説では、どのような**言語活動**を通して資質・能力を育成するかを、各領域において**言語活動例**として、2学年ごとに記載されています。**言語活動例**を参考に、児童の発達や学習の状況に応じて設定しましょう。

言語活動例 (学習指導要領解説 pp.151～152(2)「言語活動例」より)
(2)ア 説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。



言語活動 学んだことを生かして、自分たちの町における人々のつながりについて話し合おう

Step 3 単元の評価規準を設定します。

国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』の巻末資料 (p.77～) に示された「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を参考にして、設定しましょう。また、単元に該当する指導事項を示し、学習指導要領解説の指導事項との関連を明確にしましょう。

→詳しくは、[「学習評価 FIRST STEP」](#)参照

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|--|
| ①情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ) | ①「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) ②「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) | ①粘り強く、論の進め方について考え、学習の見通しをもって分かったことや考えたことを話し合おうとしている。 |

Step 4 単元の指導と評価の計画を作成します。

- 各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを考え位置付けます。
単元の指導と評価の計画(全8時間) ※本資料では、「1人1台端末」を「端末」と表記しています。

| 時 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準・評価方法等 |
|--------|--|---|---|
| 1 | ○第3学年の総合的な学習の時間に学んだことを想起する。 ○本文を通読して、内容の大体をつかみ、自分たちの町における人々のつながりについて考える。 | ・単元冒頭にある扉のページや題名を基に、既習事項とつながら学習の見通しをもつことができるようにする。 ・教材文を読み、自分たちの町における人々のつながりについて話し合うという言語活動を児童と共に設定する。 | 【単元において、児童の学習状況を適宜把握する場面を設定します。ここでは、「記録に残す評価」のみを位置付けていますが、学習内容を確実に習得できるようにするため、「指導に生かす評価」を適宜行います。】 |
| 2 | ○単元の学習課題を設定する。 ○単元の学習課題を基に、学習計画を立てる。 ○語句の意味や情報と情報との関係付けの仕方を確かめながら再読し、文章全体の構成について考える。 | ・学級全体で話し合い、適宜、児童の意見を引き出しながら、学習課題の設定及び学習計画の立案を行うことができるようにする。 ・必要に応じて辞書等を活用することができるようにする。 | |
| 3 | ○文章全体の構成を捉える。 | ・形式段落を押さえ、意味段落の各部分の役割を考えたと、文章全体の構成を考えることができるようにする。 | |
| 4 | ○文章の要旨を把握する。 | ・文章全体の構成「序論-本論-結論」と事実と感想、意見などとの関係を押さえ、文章の要旨を把握できるようにする。 | |
| 5 | ○事例と主張のつながりから筆者の論の進め方について考える。 | ・3つの事例と筆者の主張は、どのようにつながっているかについて着目して読み、筆者の論の進め方を考えることができるようにする。 | 【思考・判断・表現①】 端末*の記録・観察 |
| 6 (本時) | ○図表などの用い方から筆者の論の進め方について考える。 | ・文章のどの部分と図表などが結び付くのかを明らかにすることによって、必要な情報を見付けたり、筆者の論の進め方を捉えたりすることができるようにする。 | ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしているかの確認 |
| 7 | ○自分たちの町における人々のつながりについて考え、学んだことを生かして、スライドにまとめる。 | ・筆者の主張を基に自分たちの町における人々のつながりについて考えることができるようにする。 ・前時までに学んだことを踏まえ、自分の考えをスライド1枚にまとめることができるようにする。 | 【知識・技能①】 端末の記録 ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っているかの確認 |
| 8 | ○学んだことを生かして、自分たちの町における人々のつながりについて話し合う。 ○単元の学習を振り返る。 | ・自分の考えが広がった点は、スライドに付け加えることができるようにする。 ・どのように学び、何ができるようになったのか、単元全体を振り返り、今後の学習や生活場面につなげて考えることができるようにする。 | 【思考・判断・表現②】 端末の記録・観察 ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げているかの確認 【主体的に学習に取り組む態度①】 端末の記録・観察 ・これまでの学習や経験を振り返り、学習の見通しをもち、自分たちの町とつなげて話し合おうとしているかの確認 |

Step 5 評価の実際と手立てを想定します。

それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえて、「おおむね満足できる」状況(B)を想定し、「努力を要する」状況(C)の児童への具体的な手立てを考えましょう。



小学校第6学年 国語科学習指導案

1 単元名 説明文を読み、考えたことを話し合おう（説明的な文章 6年）

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編の第5学年及び第6学年における〔知識及び技能〕の「(2)イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。」と、〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」領域の指導事項「(1)ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。」「カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。」を目標としている。

本単元で扱う教材文は、筆者の主張を2つの視点に基づいた3つの事例で、分かりやすく述べている。また、段落ごとのまとまりがはっきりしているため、文章全体の構成や筆者の主張、事例などを捉えやすい。さらに、筆者が事例ごとに用いている写真や図表が、文章と結び付けやすく配置され、図表などの用い方を捉えるのに適している。

本単元では、学んだことを生かして、自分たちの町における人々のつながりについて話し合うという言語活動を位置付けている。児童は、話し合う際に自分の考えを適切に表現するため、筆者の論の進め方や事例の挙げ方、図表などの用い方を捉えながら教材文を読み、筆者の主張を基に話し合うことで、自分の考えを広げることができると考える。

本単元で学習する筆者の論の進め方や事例の挙げ方、図表などの用い方は、「A話すこと・聞くこと」領域や「B書くこと」領域において自分の考えを表現する際に生かすことができ、相互に関連させながら資質・能力を育成することにつながる と考える。

(2) 児童観

(略)

(3) 指導観

指導に当たっては、文章全体の構成を正確に捉え、筆者の主張と事例を結び付けたり、文章と図表などを結び付けたりしながら読むことを通して、目的に応じた論の進め方について考えることができるようにする。また、文章と図表などの結び付きを視覚的に捉えるために、1人1台端末（以下、端末）を使って、適宜、端末に示された文章と図表などに画面上で線や言葉を加えることができるようにする。端末の画面を共有したり、記録したりできる機能を活用することで、児童が互いの考えを共有し、広げることができるようにする。

第1・2時では、本単元の学習に、主体的に向かうことができるような学習課題の設定及び学習計画の立案をする活動を行う。その際、単元の最後に、「学んだことを生かして、自分たちの町における人々のつながりについて、話し合おう」という言語活動を児童と共に設定する。これらの活動を通して、児童が本単元の学習の見通しをもつことができるようにする。

第3・4時では、「筆者がどのような事実を理由や事例として挙げているのか」、「どのような感想や意見などをもっているのか」などに着目し、文章全体の構成を正確に捉え、要旨を把握する活動を行う。

第5・6時では、文章全体の構成を基に、筆者の論の進め方について考える活動を行う。第5時では、「3つの事例と筆者の主張は、どのようにつながっているか」について着目して読み、筆者の論の進め方について考えることができるようにする。本時である第6時では、「文章のどの部分と図表などが結び付くのか」を明らかにすることによって、必要な情報を見付けたり、論の進め方を捉えたりすることができるようにする。各自の端末の画面上で文章と図表などを線でつなぎ、適宜、記録、共有することで、児童が自分の考えをもったり、広げたりすることができるようにする。

第7・8時では、筆者の主張を基に、自分たちの町における人々のつながりについて考える活動を行う。

第7時の自分の考えを表現する際には、本単元で学習した、論の進め方や事例の挙げ方、図表などの用い方などを生かしてスライドにまとめ、自分の考えをより適切に伝えることができるようにする。第8時には、各自でまとめたスライドを基に、自分たちの町における人々のつながりについて、話し合うことで、互いの考えを共有し、自分の考えを広げることができるようにする。

3 単元の目標

- (1) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 [知識及び技能] (2)イ
- (2) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)ウ
- (3) 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)カ
- (4) これまでの学習や経験を振り返り、学習の見通しをもって粘り強く、論の進め方について考え、分かったことや、考えたことを話し合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

4 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|---|
| ①情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。 (2)イ | ①「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 (C(1)ウ) ②「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 (C(1)カ) | ① 粘り強く、論の進め方について考え、学習の見通しをもって分かったことや考えたことを話し合おうとしている。 |

5 単元の指導と評価の計画 (全8時間)

| 時 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準・評価方法等 |
|---|--|--|---|
| 1 | ○第3学年の総合的な学習の時間に学んだことを想起する。 ○本文を通読して、内容の大体をつかみ、自分たちの町における人々のつながりについて考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元冒頭にある扉のページや題名を基に、既習事項とつなげながら学習の見通しをもつことができるようにする。 ・ 教材文を読み、自分たちの町における人々のつながりを考えることができるようにする。 ・ 学んだことを生かし、自分たちの町における人々のつながりについて話し合うという言語活動を児童と共に設定する。 | <div style="border: 2px dashed black; padding: 10px;"> <p>単元において、児童の学習状況を適宜把握する場面を設定します。ここでは、[記録に残す評価]のみを位置付けていますが、学習内容を確実に習得できるようにするため、[指導に生かす評価]を適宜行います。</p> </div> |
| 2 | ○単元の学習課題を設定する。 ○単元の学習課題を基に、学習計画を立てる。 ○語句の意味や情報と情報との関係付けの仕方を確かめながら再読し、文章全体の構成について考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級全体で話し合い、適宜、児童の意見を引き出しながら、学習課題の設定及び学習計画の立案を行うことができるようにする。 ・ 必要に応じて辞書等を活用できるようにする。 | |
| 3 | ○文章全体の構成を捉える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 形式段落を押さえ、意味段落の各部分の役割を考えたあと、文章全体の構成を考えることができるようにする。 | |
| 4 | ○文章の要旨を把握する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章全体の構成「序論－本論－結論」と事実と感想、意見などとの関係を押さえ、文章の要旨を把握できるようにする。 | |

| | | | |
|--------------------|---|---|---|
| 5 6 (本時) | ○事例と主張のつながりから筆者の論の進め方について考える。 | <ul style="list-style-type: none"> 3つの事例と筆者の主張は、どのようにつながっているかに着目して読み、筆者の論の進め方について考えることができるようにする。 文章のどの部分と図表などが結び付くのかを明らかにすることによって、必要な情報を見付けたり、筆者の論の進め方を捉えたりすることができるようにする。 | <p>[思考・判断・表現①] 端末の記録・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしているかの確認 |
| | ○図表などの使い方から筆者の論の進め方について考える。 | | |
| 7 | ○自分たちの町における人々のつながりについて考え、学んだことを生かしてスライドにまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> 筆者の主張を基に自分たちの町における人々のつながりについて考えることができるようにする。 前時までの学んだことを踏まえ、自分の考えをスライド1枚にまとめることができるようにする。 | <p>[知識・技能①] 端末の記録・スライド</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っているかの確認 |
| 8 | ○学んだことを生かして、自分たちの町における人々のつながりについて話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えが広がった点は、スライドに付け加えることができるようにする。 | <p>[思考・判断・表現②] 端末の記録・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げているかの確認 |
| | ○単元の学習を振り返る。 | <ul style="list-style-type: none"> どのように学び、何ができるようになったのか、単元全体を振り返り、今後の学習や生活場面につなげて考えることができるようにする。 | <p>[主体的に学習に取り組む態度①] 端末の記録・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習や経験を振り返り、学習の見通しをもち、自分たちの町とつなげて話し合おうとしているかの確認 |

6 本時の目標

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。

7 本時の展開 (6/8)

| | 学習活動 | 指導上の留意点 (○) と評価規準【評価方法】(◇) |
|----|---|--|
| 導入 | 1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 | ○学習計画及び前時の学習内容を基に、教材文で用いられている図表などを確認することで、本時のめあてにつなげることができるようにする。 |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">めあて 筆者はどのような図表などを使って説得力を高めているのか考えよう</div> 2 1つ目の事例の写真を基に、本時の学習活動の見通しをもつ。 | ○1つ目の事例において、写真が文章のどの部分と結び付くのかを考えることによって、必要な情報である「事例で筆者が伝えたいこと」を見付けられることを学級全体で確認し、本時の学習の見通しがもてるようにする。 ○文章と図表などの結び付け方を大型提示装置に提示し、確認することで、個別の活動につなげることができるようにする。 |

| | | |
|------------------------------------|--|--|
| 展 開 | 3 2つ目の事例のグラフと表について個人で考える。 ・文章と図表などが示された端末の画面上又はワークシートに書き込む。 | ○2つ目の事例では、グラフと表が用いられていることを確認する。 ○2つ目の事例において、筆者がグラフと表を用いて何を伝えたいのかを考え、文章と図表などが示された端末の画面上又はワークシートに書き込むように促す。 ○ワークシートに自分の考えを書き込んだ児童には、端末のカメラで撮影するように促し、全体で共有できるようにする。 |
| | 4 ペアで話し合う。 | ○端末の画面を互いに示しながら話し合い、自分の考えを確かめることができるようにする。 |
| | 5 全体で話し合う。 ・2つ目の事例について話し合う。 ・2つの事例における図表などの使い方について比較する。 | ○発表する児童の端末の画面を大型提示装置及び各自の端末に提示することで、自分の考えと比較し、相違点を基に自分の考えを吟味できるようにする。 ○キーワードを板書することで、本時の学習のまとめに活用できるようにする。 ○2つ目の事例に用いられているグラフと表が、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにすることによって、事例で筆者が伝えたいことを押さえることができるようにする。 ○1つ目と2つ目の図表などの用い方を比較し、相違点や共通点に着目するように促すことで、児童が筆者の論の進め方を捉えることができるようにする。 |
| 6 3つ目の事例を含めた文章全体における図表などの用い方を確かめる。 | ○3つの事例を踏まえて考えることで、「図表などは、事例で伝えたいことをより分かりやすくし、筆者の論の説得力を高めていること」を確認できるようにする。 | |
| 終 末 | 7 本時の学習をまとめる。 | ○全体で共有したことや、板書に示したキーワードを基に、本時の学習のまとめを書くように促す。 |
| | 8 本時の学習を振り返る。 | ○本時で学習したことを振り返ることで、学習内容を再確認したり、次の学びや活動につなげたりすることができるようにする。 |

◇ [思考・判断・表現①]
目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。
【端末の記録・観察】

まとめ 筆者は事例で伝えたいことがより分かりやすくなるような図表などを使って説得力を高めている。

8 本時の評価規準と判定基準

| 本時の評価規準【評価方法】 | 判断のポイントと指導の手立て |
|--|---|
| ◇ [思考・判断・表現①] 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 【端末の記録・観察】 | 「十分満足できる」状況(A)の例 ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けながら、必要な情報かどうかをより正確に取捨選択したり、論の進め方について考えたりしている。 「努力を要する」状況(C)と判断される児童生徒への指導の手立て ・文章と図表などを見比べさせ、同じ文言や数値などに印を付けたり、線でつないだりするように促す。 ・図表などの一部を隠したり、違う図表などと比較したりすることで、筆者が図表などを用いて説得力を高めようとしていることに気付くことができるようにする。 |